

「骨盤臓器脱」悩む女性

未受診3年以上約4割

骨盤の内側にある子宮や膀胱などの臓器が体外に出て、尿漏れなどにつながる「骨盤臓器脱（性器脱）」

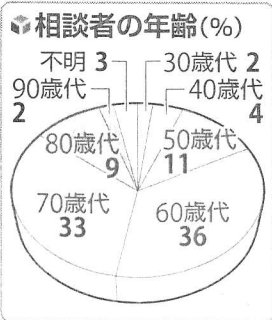
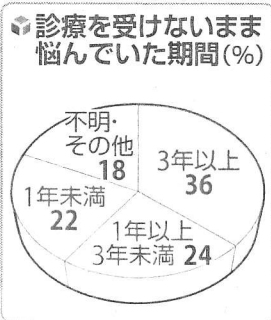
に悩む人を対象にした電話相談を今年5～6月、この病気を克服した女性たちの会「ひまわり会」などが行ったところ、3年以上、治療を受けずに病気に悩んでいる人が4割近くいることが分かった。

亀田総合病院（千葉県鴨川市）、済生会中央病院（東京都港区）、東北労災病院（仙台市）など協力した10病院が受けた837件の相談を分析した。

相談者の年齢は60歳代（36%）、70歳代（33%）が多く、50歳代（11%）、80歳代（9%）などが続いた。

この病気を抱えながら未受診でいる期間を尋ねたと

骨盤臓器脱 子宮などの骨盤内の臓器を支える筋肉によってゆるんで、臓器が腔の中に落ち込み、腔壁と一緒に体外に脱出す病気。尿が出にくい、尿が近い、漏れる、残尿感、残便感などが表れる。



「1年以上3年未満」が27%で、1年以上が6割を占めた。そのほか、「1年未満」が22%、不明・その他が18%だった。

亀田総合病院が2006～08年、独自に同様の調査を実施し、未受診の理由を尋ねた（複数回答）。「病院・診療科がわからなかった」が26%、「治療できると知らなかった」が19%、「年だとあきらめていた」が16%だった。

◆ 千葉県の女性（69）も受診までに1年も悩み続けた一人だ。

2年前、股の間から、丸い異物が出てくるのに気づいた。その後、ほかの病気で亀田総合病院を受診

し、偶然、院内に置かれていた骨盤臓器脱の資料を見て「自分の病気だ」と思った。

しかし、恥ずかしくて、友人に相談できない。次第に尿が近くなって、夜間、2、3時間おきに起きることもあったが、どうしても病院に行きたくない。

病気に気づいてから1年後の昨年春、ようやく同病院を受診。膀胱が落ち込むタイプの骨盤臓器脱と診断された。

1年間経過を見て今年7月、手術を受けた。膀胱などの臓器と腔壁の間に臓器が再び落ちてこないよう補強用のメッシュを入れる手法だ。

伸びきった腔の筋肉の一部を切って縫い縮める従来の手術法に比べ、再発率が低く、手術時間も短いなど利点があり、保険もきく。

女性は今、尿が近いなどの症状はなくなり、「気持ちやすっきりした。もっと早く、手術を受けたら良かった」と喜びを語る。

産婦人科と泌尿器科が連携する亀田総合病院ウロギネセンターの野村昌良さんは「骨盤臓器脱は生活の質を著しく低下させます。一人でも悩まず、ぜひ早く、産婦人科医らに相談してほしい」と話す。

ひまわり会のホームページは、<http://www.geocities.jp/himawarikai20040918/>